

「小さな農地でも収益を上げられる農業を目指して」

家からも市街地からもアクセスの良い西宮市甲山でブルーベリー観光農園を運営

甲山ブルーベリーファーム(西宮市) 原田 健助さん (66 歳) (神戸市東灘区)

就農コース 15 期 (R1.8 修了)

インタビュー 令和 3 年 8 月 17 日

<https://kabutoyama-bbf.com/>

1 なぜ、農業をしようと思ったか

サラリーマンの定年が近づいてきた時、このまま年金生活に入ってしまうのではなく、身体が動くであろう 80 才までを目標に、今まで経験した領域とは全く違う事に挑戦してみたいと思った事が始まりでした。

第2の人生を探すためにセミナーなどに参加していましたが、楽農生活センターが開催していた「新規就農駅前講座」(現在は、ひょうご就農支援センターにより開催)に出会いました。

参加したところ、どの講義も新鮮で興味深く、農業に取り組んでみる事を考えるようになりました。

定年後にひょうご就農支援センターの紹介を受けてトマト農家のインターンシップなどを経験。基礎的な知識や技術を学ぶ必要性を認識し、改めて楽農生活センター・就農コースの研修生について 1 週間の研修体験をした上で、第 15 期就農コース受講生として 1 年間の就農研修を受ける事となりました。



2 楽農生活センターで学んで

就農コースで研修をするに際しては果菜類に関心を持っていました。特に必修作物のいちご・トマト・メロンは「糖度高い美味しい作物を作る」という具体的目標を持つ事ができました。ミニトマト生産では店頭での商品化(差別化)を考え「糖度 11 度以上」のものを作る事を目標としました。先生方の指導の成果もあり、運良く最後まで「糖度 11 度以上」と表示したミニトマトを販売する事ができて大きな達成感を得られました。

栽培する野菜の生育状況を日々観察する事、害虫、病気、雑草などの栽培管理を行う事はとても大変でしたが、ある種想像通りの苦労ではありましたが、想定外だったのは、毎日休みなしに圃場まで通う大変さで「農業は職住近接が大切(生活と共にあるもの)」という事を痛感しました。就農コースの一年間は、台風や雨天の日を除いて元旦 1 日を休んだだけで、社会人になってから今までで一番働いた一年でした(笑)。

研修中、東灘区の八百屋さんでミニトマトを委託販売していましたが「原田さんのトマトが欲しい」と名指しでリピート購入してくれるお客様が現れ、価値を認められ

る農作物を作る農家になりたいと言う想いを深めました。

研修では、栽培技術や、農家としての行動（草刈りや残渣処理など環境整備に対する心構えや、必要なモノを自分で作る工夫など）について、技術知識ある指導員の方がいらして良く教えて頂いたと感謝しております。

一方で、収穫物を収益に変える事を学ぶカリキュラムは改善の余地があると感じました。栽培作物や販売ルートをどのように選択するか、各農家の考え方により様々な経営方針があると思いますが、方向性を考える参考となる授業がもう少し増えても良いのではと思いました。出荷する流通ごとの特性や、求められるものの違い。対価を払うのは誰か（流通業者か販売店か消費者か）によっても作物に求められる事(例えば、長持ちする鮮度か、美しさか、際立った食味か、或いは価格、等)が変わってきます。

栽培した作物を無駄にせず、いかに収益に結びつけるか？お客様にも満足して頂き収益となる農業はどういうものか？自分もまだまだ考えていきたいと思っています。

3 新たに就農してみて

卒業後は神出で農地を借りて果菜類を中心とした農業を始めたいと考えていましたが、自宅から毎日通うには遠く、農地近くで家を借り単身赴任する事を準備していました。しかし家族から100%の納得を得る事が難しいまま、どうすれば学んだ事を具体的な生き方にする事が出来るか考えていました。

卒業が真近い頃、西宮市の鷲林寺地区の農地の紹介を受けました。800㎡と当初想定よりはるかに小さい農地でしたが、家から通いやすく、市街地に近い里山地区という特性を生かして展開できる農業を検討した結果、ブルーベリーの観光農園を行う事にしました。

ブルーベリーに最適な生育環境を整えられる養液栽培を導入する事で、果樹の生育速度を早め、収量増大を目指しました。また一人で栽培管理を行うために自動灌水システムを導入し、防草シートを張り込む事で雑草管理の労力軽減と、観光農園としての美観向上を図りました。



ブルーベリー栽培コンサルタントの指導を受け、ブルーベリー園の設計と施工も指導を受けつつ、就農コース同期生の手伝いも得て農園を構築しました。

元々の農地の畝を削り平らに均して鎮圧し、土を削っては一輪車で運び水平にするマチ直し作業までは一人で行いました。防草シートの張り込みや防風ネット設置、栽培ポットの配置などは、就農コース同期の仲間に手伝って貰いましたが、工事には半年を要しました。楽農生活センター就農コースの同期や先輩達、全国にいるブルーベリーの養液栽培者など、これまでの人生では会う事の無かった多くの人達との交流が生まれました。



4 今の状況とこれから

2021 年は果樹成長を優先し収穫量を抑えた上で営業試運転としてのプレ OPEN を行っており、2022 年 6 月のグランド OPEN を準備しています。

当園は農地面積が小さい為にブルーベリーの栽培本数にも限りがあり、一度に多くのお客様を受け入れられません。ホームページからの完全予約制で 1 時間当たり 2 組様限定の貸切りとし、園主がマンツーマンで園内ガイドする「ブルーベリー摘み取り体験」を実施しています。早生のハイブッシュ系から晩生のラビットアイ系まで約 40 品種を栽培し、その日に完熟する果実を案内し、品種ごとの味の違いを体験して貰います。

美味しいブルーベリーを食べる事も含めて、楽しい農園滞在時間を過ごしてもらおう事を目指しています。

毎年一歩ずつ、より美味しいブルーベリーが収穫できるよう勉強をし、栽培管理を進めています。



5 最後に

「定年後 80 歳まで 15 年以上の時間を一区切りとし、世の中に価値のあるものを提供する生き方をしたい。」という想いで就農コースを受講し、縁あって西宮市鷲林寺地区で小さなブルーベリー観光農園を開きました。来園されるお客様・農園近隣の人達、同じブルーベリー養液栽培をしている人達とのネットワーク、就農コース同期達との関係など、様々な人達との出会いは喜びです。次々に新しい課題や目標が現れますが、10 年先を見据えて生活する事で充実した日々を過ごしています。